

# 関ヶ谷市民の森愛護会

(平成20年度第5回役員会決定事項等)

平成21年1月5日

明けましておめでとう御座います



今年の干支(エト)は「牛」です。干支は、もともと、一年十二ヶ月の月々の季節の特徴を一文字で現す農業暦として古代中国でつくられ、6世紀頃わが国に伝えられたものです。旧暦十二月は陰気が陽気を抑えてなお寒さ厳しい「大寒」の季節であるところから、この月に「おさえる」という意味の「丑(チュウ)」という文字を充て、寒気によく耐え辛抱強い「牛」を配したものと考えられています。確かに、今年はこの「丑(チュウ=ウシ)」という字が象徴するように「隠忍自重」を強いられる厳しい年回りになりそうな気がしますが、みんな、励まし合って元気に活動して参りましょう。

## ウメの木の剪定をしよう！

二年前に植樹したウメの木も大きくなりそろそろ剪定が必要な時期になって来ました。池田相談役も新年に入ったらみんなで剪定をしようと提案されています。その時に備えて、昨年11月「金沢自然公園」で催されたウメの剪定実習を基に、「公園などのウメの木」の剪定の仕方を中心に、以下に、簡単に纏めてみました。ご参考にして戴ければ幸いです。(吉田・宮本)

### ウメ木剪定の基本

#### (1) 生い茂ったウメの木を出来るだけバランスの良い健康的な樹形に整えてやる

幹の先端を切って樹高を押さえ、内部の混みあった枝を切って風通しや日当たりを良くしてやる。とくに、樹形を乱したり健全な成長の妨げとなるような「忌み枝」(注)を剪定してやるのが肝要。それだけで樹は生き生きとした良い木立に甦る。

(注)「忌み枝」とは：徒長枝(大きく伸びすぎた枝)、立ち枝(垂直に上に向う枝)、平行枝(上下左右平行に伸びる枝)、逆さ枝(幹に向ったり下向きに伸びる枝)、絡み枝(他の枝に絡んでいる枝)、交差枝(幹や主要な枝と交差している枝)、車枝(車状に伸びた枝)、重なり枝(枝が重なり日当たりが悪い枝)、幹吹き・洞吹き(幹から直接発生した小枝)、ヒコバエ(木の根元から勢いよく伸び出した小枝)、その他枯れ枝、折れ枝、病虫害を受けた枝等

#### (2) ウメの木剪定の究極の目的は、「短花枝(たんかし)」をいかに多く出させ、短花枝に付くシッカリした花をいかに多く咲かせるかにある

一年枝(枝先が緑がかった枝)は成長が旺盛で花が少なくすぐ落ちて、放っておくとドンドン伸びて徒長枝になる。これに対して短花枝(主として二年枝)は花も多くシッカリ付く。で、

(イ) 花が終わって実がチラホラの3月から4月頃、一年枝の先を1/3程度(これはメドで好みでよい)切って短花枝化してやる。各枝の一番先端にあり緑色の新枝なので分かり易く短時間で処理できるので、このとき(1)の「忌み枝」の処理も同時にしてやると効率が良い。

(ロ) 次いで、11月から翌年1月にかけて花芽(ハナメ)の先が白からピンクになってきた頃、一年枝をもう一度1/3程度(好みで良い)切り戻して一層短花枝化してやる。

このとき同時に、従来の短花枝は花芽を残して枝先のみを、花芽の付いてない長い枝は短めに、夫々切っておく。なぜなら、枝先を伸ばしたままにしておくと花の位置が年々高くなってウメの木らしい趣を失ってしまうので、幹の近くでより多くの花を咲かせるよう枝を短く剪定してやる。但し、短花枝の剪定は枝先の外芽(木の外側に付く花芽)を残すように剪定し、外芽の少し上を切り口が芽の伸びる方向と平行になるように斜めに切ってやる。

#### (3) 剪定は「どのように切ってやれば花実を沢山付けてくれるか」との想いを込めて、愛情と自信を持って思い切りよく切ってやる心構えが大切

それには「年々の検証」という作業が必要不可欠である。つまり、その年の剪定の良し悪しは花を付けた結果を見てわかるわけで、その結果を参考にして次の年の剪定の一層の向上を工夫するという年々の検証の積み重ねが樹木への「愛着と自信」を促す。

以下は、平成21年1月4日（日）開催の  
「平成20年度第5回定例役員会」における決定事項等

### [I] 今後の公式活動日

- 1月17日（土）公式活動（樹林管理、竹垣、炭焼き等）
- 2月1日（日）公式活動（樹林管理、竹垣、炭焼きの窯開き等）
- 2月21日（土）公式活動（樹林管理、竹垣等）
- 3月1日（日）公式活動（樹林管理、竹垣、ほたるの里等）

（注）各活動日の具体的な作業内容の詳細は、当該活動日の数日前にご連絡します。

### [II] 今後のパトロール予定

1月11日（日）	戸次 鎮治	戸次 明子
1月18日（日）	入部 信寿	吉澤 安永
1月25日（日）	加藤 文明	大木 道宏
2月1日（日）	橋本 順二	橋本 弘子
2月8日（日）	平野 利治	惣谷 実
2月15日（日）	池田 陽一	飯野 光吉
2月22日（日）	斉藤 和子	小倉 征子
3月1日（日）	川島 敏裕	照井 宣夫
3月8日（日）	立川 成江	門田 教与
3月15日（日）	篠原 英男	上原 隆一
3月22日（日）	鈴木 勲	永田 一彦
3月29日（日）	真鍋とめ子	雨宮 誉子

（注）パトロールは、「巡回チェックリスト」によって行い、結果は、上記  
「巡回チェックリスト」を、川島担当役員あてFAX（784-6063）か  
メール([fwic4987@mb.infoweb.ne.jp](mailto:fwic4987@mb.infoweb.ne.jp)) によって、ご報告して下さい。

## [Ⅲ] クラブ等の活動状況等

### (1) ほたる復活クラブ

- ① 年末から1月にかけての渇水時期、「ログハウス」内への流水不足のため、ハウス内で飼育中であったタニシ・カワニナを「平家ホタルの池」へ避難させた。
- ② 今後、「せせらぎ」の縁を高くして水漏れ防止を図るなど、渇水期にもログハウス内への流水を絶やさぬ補修と改良を工夫する必要がある。
- ③ また、6月の「ホタル祭り」までには、「ほたるの里」内の古くなった木道の補強整備を行う予定。

### (2) 園芸クラブ

昨年11月、「いこいの広場」の花壇に移植したパンジーは、色とりどりの花を咲かせ訪問者の目を楽しませてくれている。また、12月には、「いこいの広場」斜面最下段に「芝桜」を増殖した。春の開花時が期待される。

### (3) 木工クラブ

- ① 年末恒例の「門松作り」は、12月27日(土)、成功裡に終了した。
- ② 「山の手入口」に「関ヶ谷市民の森」と表示した看板、「いこいの広場」のログハウス前に「関ヶ谷市民の森・ほたるの里」と表示した看板を、それぞれ設置した。
- ③ 今後さらに、(イ)「山の手入口」の物置裏に花壇等への水遣りのための雨水貯水枡を、(ロ)「炭焼き小屋」裏手に簡易物置を、(ハ)「たけのこの道」下方に簡易ベンチ数却を、それぞれ設置する。
- ④ 新春のメインの作業は「竹穂垣」造りとなろう。
- ⑤ なお、来る1月10日(土)は、関ヶ谷自治会主催の「ドンド焼き」に、「コースター造り」で出店する。多数の参加協力を期待。

### (4) 炭焼事業

1月17日(土)の活動日は、奇数月の第二活動日に当り、炭焼きを実施する。火入れは午前7時の予定。多数の参加協力を期待。

### (5) 魅力ある森造り事業

- ① 新中期計画「魅力ある森造り事業」は、12月に「いこいの広場うえの北西斜面」の花壇化のための簡易作業路が完成した。
- ② 今後、ログハウス裏側空き地に「いろは紅葉」の植樹を検討する。

## [IV] その他

### (1) 門松の焼却

愛護会関係の「門松」は、前記「関ヶ谷のドンド焼き」において焼却するので、門松の焼却をご希望の会員は、1月10日(土)午前8時半までに、市民の森の「山の手入口」前に、ご持参下さい。

### (2) 次期第7回定期年次総会の予定

平成21年度の予算審議や役員改選を行う「第7回定期年次総会」は、目下、暫定的に、来る4月11日(土)午前11時から、「関ヶ谷自治会館」において開催することを予定している。最終的には、次期役員会(3月7日)において決定する。

### (2) 次回定例役員会

次回「平成21年度第6回定例役員会」は、平成21年3月7日(土)、午後7時から、「関ヶ谷自治会館」において行う。当役員会では、来年度予算や役員改選人事など「第7回定期年次総会」での重要審議事項の内容を決定する予定。

関ヶ谷市民の森愛護会会長 鈴木 勲

(文書担当 宮本 英利)